

## 富士川産おちアユ調査

誌名	事業報告書
ISSN	02862166
著者	近畑, 裕邦 桐生, 透
巻/号	2号
掲載ページ	p. 15-17
発行年月	1975年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



# 富士川産おちアユ調査

近畑裕邦・桐生 透

## 緒 言

アユの人工採苗及餌育は最近産業的な規模の生産を行っている。山梨県魚苗センターにおいても昭和48年度においては30万尾の生産を行った。しかるに当県の場合その親魚をすべて他県に依存している。魚苗センターは、先に桂川、本栖湖の天然アユについて昭和44年より採捕採卵等の調査を行って来たが熟卵を大量に得ることが出来なかった。 本年は富士川産のおちアユを採捕採卵して親魚用としての可能性の調査を実施したので報告する。

## 方 法

1. 調査期間 48. 9. 9～48. 9. 16 48. 9. 25～48. 10. 14
2. 調査場所 中巨摩郡甲西町 浅原橋下流 南巨摩郡南部町及身延町
3. 調査項目 採捕, 採卵, 発眼, ふ化

### (1) 採 捕

降雨の数日後、夕刻川の浅瀬におちアユが魚群となって集ってくるのでサクリ投あみにより採捕を行った。

### (2) 採 卵

採捕魚を翌朝センターに活魚のまま輸送ただちに常法により採卵授精を行った。授精卵はサシネットの着卵枠に附着させた。

### (3) 発眼率

発眼率については、5×5cmの着卵枠を別に3組用意し着卵数、発眼数を低倍率の顕微鏡で計数し平均を求めた。

## 結 果

### 1. 採 捕

両区とも大型のアユを多数採捕することが出来た。採捕の状況は表1のとおりである。

### 2. 採 卵

#### (1) 浅原区

♀の成熟度はきわめて良好であった。9日10日、11日、採捕の♀は総て採卵可能であった。しかし、17日の採捕魚には40%の未熟魚があった。

採卵数については♂の採精状況がきわめて悪かったので採精量を考慮して一部の魚について採卵を行った。1尾平均卵重は15♂ 1♀平均卵数は4,200粒であった。♂の採精状況はきわめてわる

表1. おちアユ採捕状況

地区別	採月	採日	採尾数	内訳		平均全長	平均体重	備考
				♀	♂			
浅原区	9月	9日	15尾	12尾	3尾			
	"	10日	32	22	10			
	"	11日	15	7	8			
	"	16日	47	20	27			
計			109尾	61尾	48尾	22.1cm	112.2g	17尾平均
南部身延								
	9月	25日	45	23	22			水温15℃
	10.	14	60	38	22			
計			105尾	61尾	44尾	21.3cm	104g	10尾平均

かった。しかし♂の成熟度を検討するためパンライト500ℓの水槽で♂の畜養を行ったところ数日後には採精が充分に行える様に成熟した。採卵採精状況は表2, 表3のとおりである。

表2. 浅原区採捕状況

採月	採日	採尾数	採卵魚成熟度		採精尾数	採精魚成熟度	
			成熟	未熟		成熟	未熟
48. 9.	10	6尾	6尾	0尾	12尾	2尾	10尾
"	11	5	5	0	10	2	8
"	17	10	6	4	15	3	12
計		21	17	4	37	7	30

表3. 卵重と卵数

採月	採日	総卵重	一尾平均卵重	1♀平均卵数	採卵数(粒)
9.	10	99g	16.5g	4.100粒	676
9.	11	76	15.2	4.300	553
9.	17	90	15.0	4.200	630
計		265			1859

## (2) 南部, 身延

♀の成熟度は未熟で採卵を行うことが出来なかった。一部の魚について卵巣重量を測定した結果, 卵巣がきわめて小さい群, 卵巣がよく発達した群, の2つに別れた。採卵出来なかった魚を池で飼育したが肉眼的には採卵可能に見えた魚からも熟卵を得ることが出来なかった。

♂の熟度は常に良好であった。

## 3. 発眼

発眼率は15~20%であり良好ではなかった。発眼状況は次のとおりである。

採卵日	発眼日	フ化日数	発眼率 %	ふ化水温 ℃
9月10日	9月14日	17日	15%	21℃
〃 11日	〃 15日	18日	15%	20℃
〃 17日	〃 21日	25日	20%	18℃

## 考 察

### ○ 浅原区

1. 富士川水系のおちアユ採捕は浅原区において成熟度の高い親魚をある程度まとまった数で採捕出来た。しかし採捕の期間は短く後半には未熟魚が40%混入しているので親魚採捕は集中的に行う必要がある。

2. ♂の採精状況はきわめてわるくこれが発眼率を低くした原因と考えられる。しかしながら数日間飼育することにより採精が可能となったことから♂は蓄養後採卵に使用することが必要と考えられる。

### ○ 南部, 身延区

南部, 身延区から採捕した親魚から成熟卵を得ることは出来なかった。又この地区での親魚群には卵巣のよく発達した群と卵巣がきわめて小さな群の2群があり後者については採卵はむづかしいと考えられる。卵巣の大きな群については卵巣ホルモン剤の投与等により採卵試験を弓続きおこなう必要がある。